

ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年6月12日 No.4]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033
URL http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html Eメール youth_against_nukes@yahoo.co.jp

被爆者の話は“慣れる”ことはないー北海道

バンクーバーで行われる世界平和フォーラムに参加する青年たちも頑張っています。

ノーモア・ヒバクシャ会館を見学

北海道 原水爆禁止06世界大会北海道高校生・学生ツアー実行委員会は11日、事前学習企画として、札幌にあるノーモア・ヒバクシャ会館に行き、ビデオ『にんげんをかえせ』を見て、被爆者の方からお話を聞き、説明を受けながら会館の展示を見てまわりました。



参加者からは、「展示物や写真、映像等は何度か見たことはあったし、今日も大丈夫だろうと軽い気持ちでいたが、1枚目の写真を見た瞬間、体がざわっとした。にんげんをかえせを見ている間も、お話を聞いている間でも何度でも背中がざわっとした。何度見ても何度聞いても“慣れる”ことはなく、感じるものがあるんだなと思った」「すべてを一瞬に破壊してしまう核兵器は人の幸せとはまったく結びつかない。これは絶対なくさねば」「証言できる人が少なくなっていくなかで、これからどう伝えていくのか、それが課題」「小・中・高校生がそれぞれの立場で感じ考えられる場を大切にしなければいけない」などの感想が出されました。

北海道高校生・学生ツアー実行委員会では、7月にも第2弾として原爆症訴訟や放射能被害につ

いて学習する企画を予定しています。

バンクーバー世界平和フォーラム壮行会開催

福島 11日(日)郡山原水協は世界平和フォーラムに参加する丸本友紀さん(19才)の壮行会を行い25名が参加しました。壮行会の中では被爆者の方から被爆体験を聞く時間を設けました。



はじめに被爆者の木幡吉輝さんが原爆投下直後の市内の様子、木幡さんが携わった死体運びなどについて「まるで生き地獄のようだった。それを忘れよう、忘れようと思ってきた。」と語り、時折声を詰まらせながら当時を振り返りました。「自分の身体への放射能の影響を知ったのは20年くらい前。それまでは教職に熱中していてそこまで考えられなかった。」という話には会場から驚きの声が出た。

その後、会場から丸本さんへの激励の言葉が贈られました。「被爆の実相を世界の人に伝えてください。」「何よりも体に気をつけて。学ぶところはしっかりと、それ以外は楽しんでください。」などといったたくさんの思いを受けて丸本さんも決意を述べ、最後に壮行会に参加した全員がメッセージを書き込んだハッピーをプレゼントしました。

各地の取組みを写真と一緒にお願いします。